うちなー

発行　浄土真宗本願寺派
本願寺沖縄別院
（浦添本願寺）
発行人　佐々木　龍三

〒901−2132
沖縄県浦添市伊祖５−10−１
電　話（098）877−3276
ファックス（098）877−4242
mail ameku2182@yahoo.co.jp

雨の「慰霊の日」全戦没者追悼法要勤まる

沖縄別院の法要の様子

平和の鐘をつく（沖縄別院）

追悼文をよむ遺族代表（久米島慰霊碑前）

雨天により屋内での法要となった（安波茶自治会）

6月23日（日）は慰霊の日。今年は大雨の中、沖縄別院、久米島布教所、近隣自治会にて「全戦没者追悼法要」を勤修しました。

読経後、沖縄別院では正午に佐々木龍三輪番、続いて参拝者の方々が、非戦平和を願い平和の鐘をつきました。久米島布教所では職員が法話として、仏さまの教えがあふれる場所には武器や争いは必要ないという「兵戈無用」のお話をしました。

久米島町慰霊碑、仲西自治会、屋富祖自治会、安波茶自治会では、雨天のためテントを増設したり法要場所を屋内に変更するなど工夫いただいてお勤めしました。どの自治会でも「戦争経験者が年々減少し、戦争への関心が減少している。非戦平和の思いを次代に引き継がねば」と話されていました。

非戦平和への思いを新たにさせていただく、尊い１日となりました。

第１回総代会 責任役員会開催

6月28日（金）、沖縄別院において２０１９年度沖縄別院第１回総代会・責任役員会を開催しました。別院の運営に関わる議案について審議し、全員の同意を得て、全議案が議決されました。終了後、役員の皆さんと職員にて懇親会を行い、今後の活動について語り合いました。

議決された事項は以下の通りです。

①２０１８（平成30）年度本願寺沖縄別院各種会計歳計決算について
②本願寺沖縄別院財産目録について
③２０１８（平成30）年度本願寺沖縄別院成果表について
以上

ハイサイ!! 九州各地から沖縄へようこそ

７月３日（水）に大分教区組長会、佐賀教区組長会、鹿児島教区組長会、７月４日（木）に熊本教区組長会、宮崎教区組長会の皆さんが沖縄別院に参拝されました。いずれも７月２～３日に沖縄で開催された第50回九州地区組長研修協議会にあわせてのご参拝でした。

またのご参拝をお待ちしております。

大分教区組長会の皆さん

鹿児島教区組長会の皆さん

佐賀教区組長会の皆さん

熊本教区組長会の皆さん

宮崎教区組長会の皆さん

行事内案

８月後半の行事

みどり丸遭難犠牲者追悼法要
【久米島町銭田森林公園】
８月17日（土）午前９時～

キッズサンガ【久米島布教所】
８月25日（日）午前10時～

法話会【久米島布教所】
８月25日（日）午後７時～

常例法座【天久礼拝所】
８月25日（日）午前10時～
法話：比嘉健 師（別院職員）

お経の練習会【沖縄別院】
８月28日（水）午後７時～
講師：伊波敬人 師（浄願寺住職）

９月の行事

常例法座【沖縄別院】
９月８日（日）午前10時～
法話：湯次行範 師（別院職員）

キッズサンガ【久米島布教所】
９月15日（日）午前10時～

法話会【久米島布教所】
９月15日（日）午後７時～

秋季彼岸会【沖縄別院】
９月23日（月）午前10時～
法話：佐々木龍三 師（別院輪番）

10月前半の行事

秋まつり【沖縄別院】
10月６日（日）午後６時半～

皆さまのご参加・ご参拝を心よりお待ちしております。

児童念仏奉仕団

7月23日（火）～25日（木）、沖縄特区の児童参仏奉仕団は西本願寺（京都市）にお参りし、併せて京都・大阪を旅行してきました。児童念仏奉仕団とは、全国の児童が西本願寺に参加し、子どもたち同士の交流を深める行事です。全国から４１０名。沖縄からは、元気いっぱいの８名が参加しました。

御影堂（国宝）に全国から410人の子どもがあつまる

手の届きそうなところに、親鸞聖人像や文化財が

1日目！

恒例「おそうじタイム」で始まりました。持参の雑巾で、全国から集まった子どもたちと御影堂・渡り廊下をピカピカにします。沖縄の子どもたちは、お堂の大きさに驚きながら、一生懸命おそうじしました。

心をこめてふきそうじ

その後、市内の京都水族館を見学。京の川・京の海の生き物たちにみんな興味津々で、写真を撮ったり、大水槽前のクッションに座り自由に泳ぐ魚たちを眺めていました。

御影堂と阿弥陀堂（国宝）をつなぐ渡りろうか。ここもみんなでピカピカに

2日目!!

朝5時に起き、6時から御影堂にてお晨朝（朝のお勤め）です。ご門主様の声にあわせ、「なもあみだぶつ」と大きな声で称えました。そのあとは、安穏殿でレクリエーション。ミニゲームで汗をかいて走り回ったり、初めて作る念珠づくりに苦戦しながらも完成を喜んだり、楽しい時間を過ごしました。

午後は大阪（枚方市）に移動し、ひらかたパークでジェットコースター、観覧車、お化け屋敷などを楽しみました。沖縄にはない

↑京都水族館。大水槽にくぎづけ
←水族館入り口では旧・京都市電が出迎えてくれる

遊園地に、子どもたちは暑さも忘れ、閉園ギリギリまで遊びました。おいしい夕食ののち、ホテルへ。遅くまでわいわいお話をして、最後の夜を楽しみました。

最終日!!!

大阪市内観光。大阪城も見学し、空港へ。お土産を買ったり、大阪名物を食べたりしました。那覇空港に到着するとご家族が出迎え、子どもたちは安堵の色を見せながらも興奮のままに、楽しかった旅の報告をしていました。「本願寺の大きさに驚いた」「全国からたくさんの子どもたちが来ていた」「遊園地にまた行きたい」「次も参加したい」などの声が聞こえてきました。

ぜひまた参加してくださいね。

2日目、レクリエーション会場の安穏殿

ミニゲームに真剣な表情の子どもたち

キン肉マンのラッピング列車と記念撮影

ほとけさまのおはなし

苦難の人生にも「ありがとう」

誰かに何かをしてもらったとき、感謝の気持ちで「ありがとう」と言います。そう言われて嫌な気持ちになる人はいないでしょう。「ありがとう」は漢字では、「有難う」と書きます。「有難い」を辞書で調べると、「存在しがたい、またないくらい尊い、世に生きることが難しい」などさまざまな意味が載っています。実はこの言葉、仏教の言葉なのです。仏教では、人間に生まれてきたことはたいへん喜ぶべきことであると教えられています。人間に生まれるのは、それほど難しいことなのです。よくよく考えると、私の存在は、当たり前ではなかった、難しいことであった、と気づかされます。また、「難有りを　逆さから読めば　有難い」と詠んだ方がおられます。お念仏のみ教えに生かされる人には、苦難は苦難に終わらず、有難いと受け止める心が芽生えるのだと、この詩によって教えられます。

人生は、思い通りにならないことに出会い、苦しいことが避けられないことの連続です。その際に、愚痴・不平を言いながら寂しく人生を終えるのではなく、なにごとも「ありがたい」「ありがとう」と受け止めていく心があったなら、これほど充実した人生はないのではないでしょうか。

ありがとう